

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 16 年 11 月～持ち直しの動きが見られる輸出

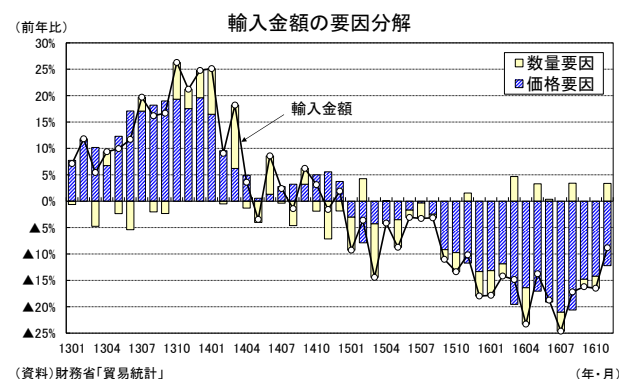
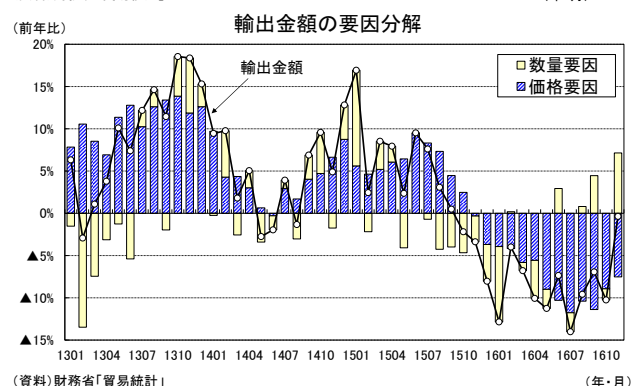
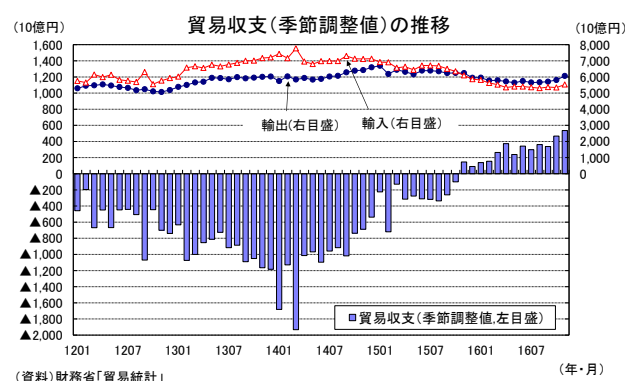
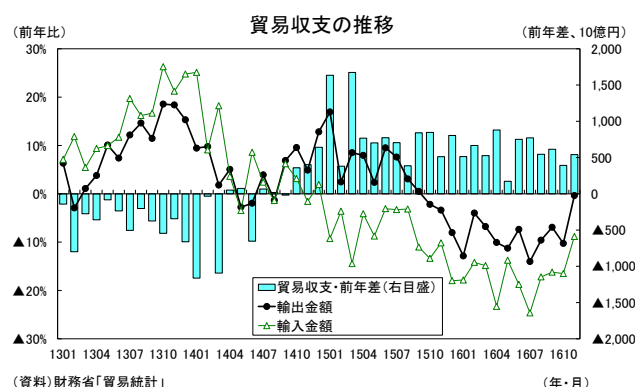
経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 輸出数量が高い伸びに

財務省が 12 月 19 日に公表した貿易統計によると、16 年 11 月の貿易収支は 1,525 億円と 3 ヶ月連続の黒字となったが、事前の市場予想（QUICK 集計：2,274 億円、当社予想は 1,319 億円）は下回った。輸出（10 月：前年比▲10.3%→11 月：同▲0.4%）、輸入（10 月：同▲16.5%→11 月：同▲8.8%）ともに前月から減少幅が縮小したが、輸出数量が高い伸びとなり輸出の減少幅がより大きく縮小したため、貿易収支は前年に比べ 5,400 億円の大幅改善となった。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比 7.4%（10 月：同▲1.4%）、輸出価格が前年比▲7.3%（10 月：同▲9.0%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年比 3.6%（10 月：同▲2.4%）、輸入価格が前年比▲12.0%（10 月：同▲14.4%）であった。



季節調整済の貿易収支は 5,361 億円の黒字となり、10 月の 4,668 億円から黒字幅が拡大した。輸

出が前月比 4.3%と 4 ヶ月連続で増加し、輸入の伸び（前月比 3.4%）を上回った。

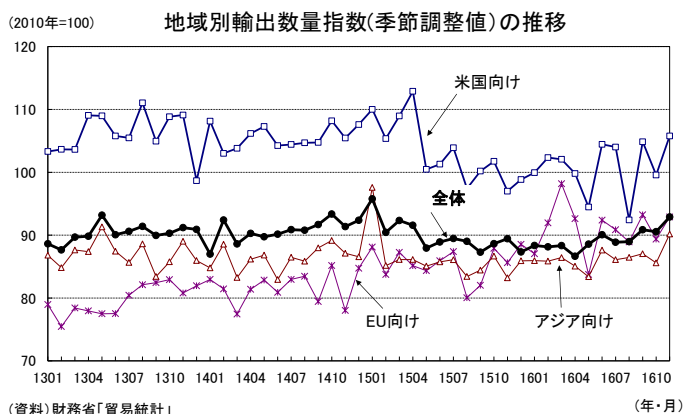
2. 持ち直しの動きが見られる輸出

11 月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比 8.8%（10 月：同▲2.0%）、EU 向けが前年比 8.2%（10 月：同 1.7%）、アジア向けが前年比 8.6%（10 月：同▲0.9%）といずれの地域向けも高い伸びとなった。

季節調整値（当研究所による試算値）では、米国向けが前月比 6.2%（10 月：同▲5.1%）、EU 向けが前月比 3.9%（10 月：同▲4.1%）、アジア向けが前月比 5.3%（10 月：同▲1.7%）、全体では前月比 2.6%（10 月：同▲0.3%）となった。

11 月の輸出数量指数（季節調整値）が高い伸びとなったのは 10 月に大きく落ち込んだ反動の面もあるが、10、11 月の平均を 7-9 月期と比較すると、米国向けが 2.2%、EU 向けが 0.1%、アジア向けが 1.5%高い水準にある。景気が堅調に推移する米国向けを中心に輸出は持ち直しの動きが見られる。

ただし、前年に比した輸出数量の高い伸びは、今年の 11 月が昨年よりも平日の数が 1 日多く通関日数が多かったことが影響している可能性があること、このところ輸出を大きく押し上げている半導体電子部品は新型スマートフォン関連需要の一巡によって今後反動が見込まれることには留意が必要だろう。



3. 貿易黒字(季節調整値)は縮小へ

11 月の通関（入着）ベースの原油価格は 1 バレル＝49.2 ドル（当研究所による試算値）となり、10 月の 45.2 ドルから上昇した。11 月のドバイ原油は 40 ドル台半ばとなっていたが、12 月に入り 50 ドル台に上昇している。通関ベースの原油価格は 12 月に 40 ドル台半ばまでいったん下落した後、17 年 1 月には再び 50 ドル台まで上昇することが見込まれる。

ここにきて急進している円安は輸出入価格とともに押し上げるが、輸入のほうがドル建ての割合が高いため、輸入価格の上昇幅が輸出価格の上昇幅を上回るだろう。

一方、数量ベースの輸出は持ち直しの動きが見られるが、海外経済の回復が緩やかにとどまることから今後伸びが加速することは期待できない。このため、先行きの貿易収支（季節調整値）は黒字幅が縮小する可能性が高いだろう。

